

2012年5月 津波被災資料保全活動報告

2012年5月31日

NPO 法人宮城歴史資料保全ネットワーク

NPO 法人宮城歴史資料保全ネットワーク（略称：宮城資料ネット）では、各地で被災した歴史資料の救済および復旧作業を実施している。

2011年3月に発生した東日本大震災では、津波被害によって多くの歴史資料が水損し、劣化・消滅の危機に瀕している。これらの歴史資料を救済・回復し、永く後世に伝えていくために、宮城資料ネットでは、被災した歴史資料のクリーニング作業を、各地から申し出をいただいたボランティアとともに実施している。

作業は、津波被害を受けた歴史資料の乾燥作業、汚損物質の除去作業、劣化の防止作業、今後の散逸を防ぐための整理作業という手順で実施している。一連の工程を経た資料は、デジタル保存のための撮影をおこなった後、資料を所蔵者に返却することになる。

本月は、4件の津波被災資料群についてクリーニング作業を施した。

1 石巻市北上町周辺学校資料のクリーニング作業

同資料群は、3月23日に石巻市教育委員会からの要請により救済し、その後継続的に実施している。作業は泥汚れの除去とエタノール噴霧による殺菌措置を中心におこなっている。本月の作業により、明治期から平成期にわたる学校運営に関する資料段ボール37箱分のうち、29箱分の処置を完了することができた。来月以降残り8箱分の処置を実施し、同資料群についてすべての作業を完了する予定である。



2 仙台市若林区個人宅資料のクリーニング作業

5月11日、仙台市史編さん室からの依頼により、同家の資料を事務局に搬入した。2階に安置されていたため、津波被害を受けていないとの情報であったが、底部に泥が確認され、一部について津波被害を受けていた可能性が想定される。

5月14日、現状確認をおこなったところ、全体にネズミによる被害が見受けられることに加え、一部資料について津波被害の形跡が確認され、湿気を帯びている資料も存在していた。

同資料群の作業方針として、まず資料全体を送風による乾燥作業を施し、津波被害が確認された資料について、汚



水損の形跡が確認された資料群

損物質の除去とエタノール噴霧を中心としたドライクリーニング作業をおこなうことにした。

5月30日、対象資料約400点分のクリーニング作業を開始し、そのうち約50点程度の処置を完了した。翌月以降継続して作業を実施する予定である。

3 石巻市湊地区個人宅のクリーニング作業

5月7日、石巻市在住の関係者より、同家資料の被災状況について連絡を受けた。その後5月21日に資料を救済し、文書類約200点、ふすま1枚、漆器類1箱、雛人形1箱、軸類2箱分を事務局に搬入した。資料はいずれも乾燥しており、そのほとんどにカビの発生は確認されなかったが、江戸時代のものといわれる雛人形については全体にカビが発生していたため、エタノール噴霧の後、1体ごとに薄様で包み安置している。

文書資料については、全体的に汚損が確認されたが、早期に乾燥されていたため、顕著な劣化は確認されなかった。これらについては、軸物資料とあわせ翌月以降順次処置を施していく。

なお、その他漆器類について、カビの発生は確認されなかったが、泥などの汚損物質が大量に付着していたため、クリーニング作業を実施した。



搬出当時の漆器類



処置を終えた漆器類

4 石巻市住吉地区個人宅のクリーニング作業

同資料群は、1月に救済後集中的に作業を実施していた。3月以降、他の資料群を大量に受け入れたため中断していたが、気温の上昇に伴い、劣化の進行が懸念されたため、経過観察も含め作業を再開した。

5月21日、支援の申し出を受けた各大学ゼミとともにドライクリーニング作業を実施し、1箱分の資料について汚損物質の除去とエタノール噴霧の処置を施した。翌月以降、継続的に申し出を受けている各大学ゼミとともに処置を施す予定である。

